

時代が大きく 変わるものたちに 必要な学びとは

私塾のあるべき姿を考える

世界情勢が次々と変わる昨今。先行きの見えない時代となり、これまでの「いい大学を出でいい会社へ就職すれば安泰」という考えが通用しなくなっている。そんな渦中において、私塾は子どもたちに何を教え導いていくべきなのか。ICT×自立学習型能力開発プラットフォーム「TERRACE」、「速読解思考力講座」「速読聴英語講座」を手がける株式会社SRJ 執行役員 秋山和沙氏と、サス学クラウドサービスSGXの開発者である株式会社ジェイシー教育研究所の堀洋一氏に、未来の子どもたちに必要な学びについてお話しをいただいた。

必要です。
共に考え
先生は子どもの
伴走者であり、支援者。
学ぶ姿勢が
必要です。

SRJ 執行役員
秋山 和沙氏

学生時代の通塾先で、「どう生きたいか」「人としてどうありたいか」に寄り添い指導してくれた恩師との出会いにより、教育業界を目指す。大手個別指導塾での経験を経て、株式会社SRJへ入社。2020年に発売されたFUTUREは、執筆・監修と共に企画・編集に関わっている。

SRJ 執行役員
秋山 和沙氏



ジェイシー教育研究所
みらい教育企画室
堀 洋一氏

全国展開する大手進学塾で関西～関東の教育現場と教材開発部門を歴任。「サス学」の可能性に魅せられ、講師として実践するだけでなく「新しい学びのカタチ」と共に作りあげていく仲間を増やしたいと考え、「サス学クラウドサービスSGX」を開発。

時代は変わる。そのとき「普遍的な価値ある学び」を子どもたちへ



堀 本日はよろしくお願いします。株式会社SRJ様では先進的な教育プログラム開発に力を入れられていますよね。その背景にはどのような想いがあるのでしょうか。

秋山 創業から25年経ちますが、私たちの理念は一貫して「社会で活躍できる人づくり」にあります。「社会で活躍できる人」の定義は時代により変わりますが、どんな時代にも応用可能な人間力を、未来を生きる子どもたちに身につけてほしいという思いで、次世代教育の普及に取り組んでいます。かつては「いい大学に行けばいい会社に入れて、定年までその会社にいられる」とゴールが見えており、塾も学校もレールに乗ることを目指していましたが、その前提が変わつてしまふのが現在だと感じます。

堀 私自身、これだけ世の中が多様に変わったのは、日本において戦後初だと感じます。高度経済成長期、バブル崩壊でも変わらなかったのにに対し、明らかにここ10年でさまざまな変化が起きていますよね。特に今、コロナ禍になり戦争が始まるなど、グローバルな規模で社会が変わりつつあります。

秋山 グローバルな規模で世の中が変わっている今、自分が子どもの時代に受けた教育やかつての価値観を子どもに教えるのは違う、大人も分かっているはず。しかし教育現場は、いまだに「勉強を教えるためだけのもの」になってしまっています。もちろん学力も大事ですが、時代の先行きが見えず不安であるが故に、自分が受けた教育をそのままおこなってしまい、過去の再生産をしようてしまう。そこには、選択できる教育メソッドに限りがあることも理由としてあるのではないでしょうか。

堀 株式会社SRJ様には、小学校高学年から高校生までの幅広い子どもたちを対象に、仲間との議論の中で正解のない問い合わせで考える探究学習型の「FUTURE」というアクティブラーニング教材がありますね。

秋山 「FUTURE」では、目まぐるしく変化する社会において正解は必ずしもひとつではないという考え方のもと、「これから生きる子どもたちが自ら考え、自分自身の最適解を

導く」ための教材として新たに誕生させたものです。実社会、実生活における様々なテーマの課題設定を元にしているのですが、例えば「自分を漢字1字で表すと?」や「政策を掲げて知事を目指そう!」などの課題があります。いずれも、正解のない問い合わせで、答えを導くために周囲の人の意見を聞き、調べ、自分の意見をまとめることが必要です。その回答を導くための道筋にこそ、学ぶべきものがあると私たちは考えています。これは御社のサービスである「サス学」の目標とともに近いのではないかでしょうか。

堀 そうですね。「サス学」は子どもたちが未来を生き抜く力を育むことを目的としています。私たちは、教科の学習は一人でもできると考えており、「サス学」を通じて多様な価値観や「生み出す力」、「やりとりする力」や「伝える力」を育みたいという想いがあります。それこそが、限られた時間、複数の生徒が集まっているときにしかできない学びだと感じています。

「今まで通り」が通用しない。学習要領の改変で進む塾の二極化



秋山 堀様はもともと大手進学塾で、塾講師として受験指導をされていたそうですね。その後、株式会社ジェイシー教育研究所へ移りサス学クラウドサービスSGXを開発されたとのことですが、そこには個人的な体験や理由があるのですか?

堀 塾の現場に立っていた時、読解力や思考力などの知識重視の受験勉強だけでは会得できない能力が、全ての学びに直結すると考えていました。その後、本社に移って教材制作を手がけるようになったのですが、その中で「やはり教材も、受験に直結するかどうかではなく、学びに対する姿勢を身に着けるところからスタートすべきなのです」と思うようになりました。特に小学生は、目の前にあるものに興味を持てるかが重要。それが先立てば、興味関心から広

がって自ずと勉強するようになるものなのでは、と感じていました。現在は自らもサス学講師として子どもたちと接していますが、やはりその推論は正しかったと実感しています。

秋山 ある導入塾の先生が、「海外に留学した際、日本との違いを痛感した」と話していたのを思い出します。海外では自分の主体性が大切にされ、子どもの学ぶ姿勢に日本と大きな違いを感じたと仰っていました。世界が変わってきている今、子どもたちの将来の仕事の内容や一緒に仕事をする相手も変わってくるはず。このまま従来の教育を続けるのは、ちょっと怖いですよね。

堀 海外では教育の違いによって、「自分の意見を言いつつ、他は他として認められる能力」がすでに身についているんですね。このギャップは大きいと思います。そのギャップに対する危機感から、すでに変わった学校や塾も始めていますよね。

秋山 塾の現場から昨今、「提出物を出し、テストでいい点をとっているのに、学校の通知表で5が取れなくなった」という声が届きます。よく聞くと、「提出物に自分の考えをまとめられているか」「振り返りができるか」が重要視されているんです。学校教育の現場では、文部科学省が定めた「学校教育において重視すべき三要素(思考力・判断力・表現力)」がすでに反映されており、先が見据えられている。そんな中、定期テスト対策だけを行なう塾だと「今まで通りやっているのなぜ?」と感じるのは当然かもしれません。一方、考えを切り替えて新しい学びをスタートさせている塾も出てきており、二極化を感じますね。

教育ではなく「共」に育つ「共育」を。指導者のあるべき姿



堀 時代や教育のあり方が変わってきており、置き去りにできない問題として「先生が変わること」もあると感じます。

秋山 そうですね。まだ現場では答えのないものに取り組むことに、大人ができていないと感じます。

堀 弊社では「サス学」の導入をご検討いただいている塾等の先生から、体系的な指導マニュアルのようなものを求められることがあります。しかし、探究型学習は「教える」ものではなく、一緒に学ぶもの。探究型学習では、先生は先生になろうとするのではなく、ファシリテーターの立ち位置を目指していただきたいとよくお伝えしています。

とはいえ、ファシリテーターとしてどのような立ち回りをすべきかは頭を悩ます部分もあります。弊社では「サス学」を導入していただくにあたって、認定講師として必要な知識と技術を得るために「講師育成」システムを提供し、先生方へのサポートを行っています。子どもたちへプログラムを

実施するための「教材アプリ」システムに加え、認定講師が共に集う「コミュニティ」も立ち上げるなど、情報交換できる仕組みも構築し、新しい学びの形を作りあげていく仲間を集めているところです。教育とは「教える」と書きますが、これからは大人も「共に学ぶ」、共育が必要なので

はと感じます。

秋山 先生は子どもの伴走者であり、支援者。社会で活躍するために何が必要かを共に考え学ぶ姿勢こそが今後は必要になると感じます。

堀 私自身、「サス学」の学びの場に立ちファシリテーターを務めるのですが、印象深いのは子どもたちが水を得た魚のように好き好きに発言し始めることです。普段子どもたちの様子を見ている先生方が「〇〇ちゃんがこんなに発言するのを見てきた」と驚くほどです。

秋山 「他人の目を気にせず思ったことを自由に発言できる場」が、日本の教育現場にはまだないんでしょうね。

弊社でも「FUTURE」受講のオンラインイベントを実施した際、zoomチャットで子どもも同士がすごいスピードで対話しているのを見た。自分で学び、考え、発言できる場が今後増えると、子どもたちにとってより良い学びになると思います。

堀 学校は国の政策がダイレクトに降りてくる場。そのため、革新的な取り組みをしようとしても限界があります。一方の私教育、特に塾は、それができる唯一の立場です。古くから塾は世の中を睨み、これから先、子どもたちに何が必要かを考えてきた存在で、それはいつの時代も教育の最前線であったはず。私たちが目指すべきは、目の前の問題に柔軟に対応できる、レジリエンスの高い人を育てるにあります。私教育が、学校教育の後追いではなく導く立場になることで、この国の未来を、子どもたちが変えていってくれるんじゃないでしょうか。

FUTURE

今を読み解き、みらいを考える

思考力
判断力
表現力

小学生向け
対象: 小学生高学年
テーマ数: 12テーマ

中高生向け Vol.1
対象: 中学生・高校生
テーマ数: 20テーマ

中高生向け Vol.2
対象: 中学生・高校生
テーマ数: 20テーマ

中高生向け Vol.3
対象: 中学生・高校生
テーマ数: 20テーマ

「FUTURE」は予測困難な社会の中で、生徒が自ら考え、調べ、一緒に学ぶ仲間との議論の中で、自分自身の最適解を見いだし自分と向き合うこと、未来を考えるきっかけにつなげます。2022年度から導入される「探究」や総合型選抜・学校推薦型選抜に向けた能力の養成、具体的な授業・入試対策の一環にもつながります。

サス学

SUS-GAK

子どもの探究心を掘り起こそう!
サステナブル+学び

未来をつくる
子どもたちへの
探究型学習

サス学とは?

「サス学」公式ポータルサイト
<https://susgak.com/>

「サス学」とは、社会で起きていることをジブンゴトととらえ、サステナブル(持続可能)な未来をつくるための知恵や価値観を育む探究型学習で、未来への変化に対応できる「新しい学びのカタチ」の一つです。

「サス学」は三井物産株式会社の登録商標です。

「サス学」講師の
ネットワーク
全国に拡大中!



求む!
探究者。

サス学講師として、
子どもたちと共に探究心を育み、
未来を創る仲間を募集中!

検索

「サス学」の知識・技術をはじめ、授業で利用する教材やアイデア、
講師たちのコミュニケーションの場を提供します。



詳しいは、
右記QRコードより
ご確認ください!
ジェイシー教育研究所

